

発見かんづま

— 北から南から —

日本一の石門

神崎市立脊振小学校

この石造校門は、大正三年三月に、大正天皇のご即位を記念し、併せて脊振の文教の振興と発展を祈念し建てられたものである。

高さ4.6メートル、幅1.3メートル、重量は正面右が14トン、左が13トンで学校裏山の花崗石材を用い、基部は埋込みとなっている。

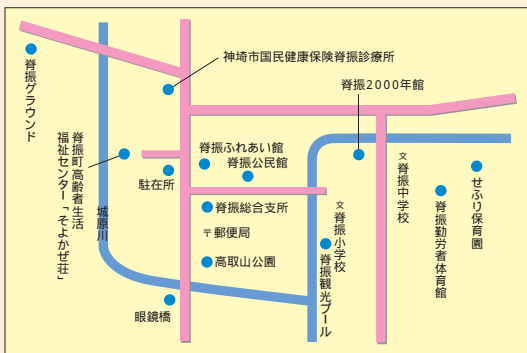
時の村長徳川権七翁発起のもと、村民総出の奉仕作業で、石材切り出し、運搬、建立まで幾日もかかる大工事であったという。

山深い故郷に、新しい教育文化の殿堂を確立し、優れた人材の養生と、豊かな社会を建設しようとする脊振全村民のひたすらな熱意と願望が、この堂々として、ゆるぎない日本一の大校門を造り上げたものといえよう。



日本一の石門の教え (校訓)

- 1、心の大きな子になれ
- 2、たくましい子になれ
- 3、耐えぬく子になれ
- 4、礼儀正しい子になれ
- 5、村を興す子になれ



編集後記

蒲島郁夫・熊本県知事は県議会で、川辺川ダムについて、『白紙撤回、そしてダムに頼らない治水を極限まで追求すべし』と表明。また、『真の地方自治を実現する為にも、地域独自の価値観を大切にする機運を盛り上げていくことが求められている。治水についても画一的基準ではなく、地方の価値観を重視したやり方があってよいのではないか。治水の方法論として、その地域なりの要望をよく聞き、流域に暮らす人たちの理解を得ながら進めていくというのがあるべき姿』と言明。政治のあり方として真摯に受け止めたい。
 〈福田、記〉

広報委員

委員長 白石 昌利

副委員長 内村 夏生

委員 田原 和幸

〃 福田 清道

〃 内田 良治

お詫びと訂正

平成20年8月13日発行の神崎市議会だより(第9号)5ページの一般会計基金の状況表中、計「13億1、216万7千円」とあるのは、「14億6、229万4千円」の誤りでした。

お詫びして訂正します。